

## ＜教育講演 (4)-3＞

## 神経内科に役立つ漢方薬：症例と頻用処方

石田 和之<sup>1)</sup>

要旨：今日では何科の医師にとっても最小限の漢方の知識は不可欠である。しかし、神経内科領域では漢方はまだ十分認知されていない。神経変性疾患などの難病に対する漢方の利点は今後の課題であるが、日常診療上よくみられる頭痛・しびれ・疼痛・めまいなどの症候には漢方が有用である。これら症候の原因が重篤な疾患ではなくても、愁訴に苦しむ患者数は多く、社会への影響は小さくない。そこで、呉茱萸湯・五苓散・牛車腎気丸・疎経活血湯・苓桂朮甘湯など、わずか10数種類の漢方薬を使いこなすことができれば、治療の選択肢が広がり有益である。また、漢方の使用経験を集積し共有できれば、漢方のエビデンスの確立に役立つと考えられる。

(臨床神経 2013;53:938-941)

Key words：漢方薬、慢性頭痛、疼痛、しびれ、めまい

## はじめに

漢方の処方箋は難しいといわれる。漢方の処方箋解説書をもて、一つの漢方薬に対して関連のない複数の疾患が適応とされ、逆に単一の疾患に複数の漢方薬が列挙されている。これを漢方薬の「異病同治」、「同病異治」という。これは一見不可解であるが、西洋薬にも同様の事例はある。パーキンソン病治療薬にL-dopaや抗コリン剤、モノアミン酸化酵素阻害薬など作用のことなる治療薬があることは同病異治であり、イブジラストが気管支喘息や脳血管障害後遺症にもちいられることは異病同治と同等である。

西洋薬は通常ガイドラインを参考に選択されるが、漢方薬は「証」に基づき処方される。証とは患者の症状を気血水理論などの東洋医学的視点で解析した診断である。しかし、西洋医学の視点からは証は理解しがたい。そこで、証を意識せず漢方薬を選択するためにチャートをもちいて解説する。

## 慢性頭痛の漢方治療

漢方の適応となる頭痛は、主に片頭痛や緊張型頭痛などの一次性頭痛であるが、脳血管障害後遺症や薬物乱用頭痛などの二次性頭痛にも適応となるものがある。日本頭痛学会によるガイドラインでは漢方薬はグレードB、「おこなうよう勧められる」と分類され、呉茱萸湯、桂枝人参湯、釣藤散、葛根湯、五苓散の5剤が推奨されている。しかし、ガイドラインで推奨されていても実際の使いこなしは難しい。

Fig. 1は慢性頭痛に頻用される漢方薬のチャートである<sup>1)</sup>。漢方治療では片頭痛と緊張型頭痛を区別せず、「冷え」の有無など体質を参考に選択する。第一選択は、冷えがあれば呉

茱萸湯、冷えが無ければ五苓散を選択する。雨天で悪化する頭痛も五苓散の目標となる。第一選択無効例では胃腸虚弱や月経との関連を参考に第二選択を検討する。

ガイドラインの漢方薬の中で、呉茱萸湯には有効性を示すエビデンスが複数ある。ランダム化比較試験として、漢方独特の証を考慮した、Odaguchiらによるレスポンス限定ランダム化比較試験の報告がある。そのデザインは、第一段階として慢性頭痛患者へ呉茱萸湯を一律投与し、4週間後に呉茱萸湯が有効であった症例（レスポンス：証の適合した症例）を抽出した。休薬期間後、第二段階としてレスポンスを不作為に2群に分け、一方に呉茱萸湯の実薬を、他方に偽薬を投与して4週間後に効果を比較した。その結果、実薬群は対照群に対して頭痛の頻度、鎮痛薬消費量ともに有意に改善した<sup>2)</sup>。丸山は塩酸ロメリジンと呉茱萸湯とのクロスオーバー試験をおこない、呉茱萸湯投与群で有意に片頭痛発作回数が減少したことを報告した<sup>3)</sup>。

Fig. 1で、もう一方の第1選択である五苓散は、ガイドラインでは血液透析時の頭痛に有効とされている。しかし、血液透析とは無関係に五苓散は慢性頭痛に有効で、とくに雨天と関連して悪化する頭痛に奏功することが多い。灰本らは頭痛日記に天候を記載して前向きに調査し、五苓散有効群と無効群で天候との関連を比較した。結果は、「雨の前日に悪化する」頭痛に五苓散が有効であるオッズ比は16.3であった<sup>4)</sup>。すなわち、「雨天と関連した頭痛に五苓散が有効」という口訣の正しさを証明した。また、呉茱萸湯と五苓散の鑑別に関して、小規模な臨床研究から呉茱萸湯が陰証（冷え体質）に、五苓散が陽証（冷えのない体質）の頭痛に有効であることが示された<sup>5)</sup>。

これら漢方薬の作用機序は不明な点が多い。脳血管障害後の慢性頭痛において、釣藤散有効例ではSPECTで脳血流の

<sup>1)</sup> 海老名総合病院附属海老名メディカルサポートセンター内科 [〒243-0433 神奈川県海老名市河原口1519] (受付日：2013年6月1日)



謝酵素の 11- $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase 2 型 (HSD2) を阻害するため、HSD2 による腎尿細管での cortisol から cortisone への転換が障害される。Cortisol は鉱質コルチコイド受容体 (MCR) との結合能も有しており、増えた cortisol が MCR と結合して偽アルドステロン症が発症する<sup>10)</sup>。1 日当たり 2.5 g 以上の甘草の摂取で偽アルドステロン症が発症しやすいといわれているが、肝機能障害のため MRP2 の機能が低下すれば、もっと少量でも起こりうる。甘草は多くの漢方薬にふくまれているが、芍薬甘草湯にはとくに多く、医療用エキス製剤 1 包中に 2 g もふくまれている。したがって、芍薬甘草湯は連用を避け、筋痙攣時の頓用が望ましい。

### 症例 3 こむら返り 66 歳 女性

以前からこむら返りがあり、最近では下腿から大腿部もつりやすくなった。長時間歩行後につりやすく、夜間就寝中に足がつって目が覚めることもあった。神経学的に特記すべき所見なく、諸検査でも異常はなかった。牛車腎気丸エキス顆粒 5 g 分 2 で治療開始後、足がつることはなく、睡眠中のこむら返りも消失した。

### 症例 4 歩行困難 63 歳 男性

5 年前に両足の爪先にしびれを自覚し、2 年前から歩行時にしびれが大腿部まで拡大した。1 年前から 100 m の歩行で間欠性跛行が出現した。整形外科で脊柱管狭窄症と診断され、1 年間保存的治療を受けたが無効のため当科を受診した。腰椎 MRI で L4/5 中心の脊柱管狭窄あり。疎経活血湯エキス顆粒 7.5 g 分 3 を開始した。2 週間後に歩行時のしびれが緩和し、6 週間後には跛行が消失して 2 km 以上歩行可能となった。

## めまいの漢方治療

めまいの漢方治療のチャートを Fig. 3 に示した。めまいの第一選択は苓桂朮甘湯である。めまいにもちいる漢方薬の多くは慢性頭痛と共通しており、慢性頭痛の漢方治療と同様に、冷えや胃腸虚弱の有無、月経との関連などを考慮して処方を選択する。

## まとめ

一部を除く多くの漢方薬にはエビデンスがまだ不十分である。本稿で示したチャートは文献的知識や口訣を総合した筆者の私見であり、エビデンスに基づくガイドラインとはことなる。しかし、わずか 10 数種類の漢方薬を使いこなすだけでも治療の選択肢が広がり、診療上の利点となる。そして、その臨床経験を集積し共有できれば、漢方のエビデンスの確立に役立つと考えられる。

謝辞：日本漢方の体系や理念、診療技術についてご指導いただいた東京女子医科大学東洋医学研究所 佐藤弘先生 ならびに 本講演にあたり貴重なご助言をいただいた自治医科大学神経内科 村松慎一先生に深謝いたします。

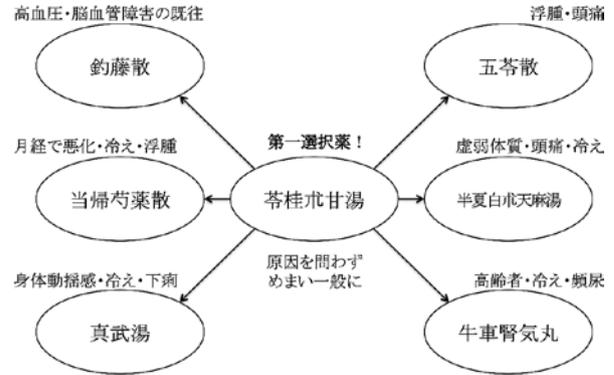


Fig. 3 めまいの漢方治療.

めまいの第一選択薬は苓桂朮甘湯である。苓桂朮甘湯は、めまいの原疾患を問わず、また、冷えの有無も関係なく投与可能である。しかし、足が冷えて上半身がのぼせる「冷えのぼせ」があるばあいは、より効果的である。苓桂朮甘湯が無効のばあいは第二選択を検討する。めまいと頭痛の漢方治療薬は共通する処方が多いため、頭痛と同様に冷えや胃腸虚弱の有無などを参考に処方を選択する。

※本論文に関連し、開示すべき COI 状態にある企業、組織、団体はいずれもありません。

## 文 献

- 1) 石田和之. 頭痛. 佐藤 弘, 編. jmedmook No.22 あなたも名医! 漢方を使いこなそう. 東京: 日本医事新報社; 2012, p.66-70.
- 2) Odaguchi H, Wakasugi A, Ito H, et al. The efficacy of goshuyuto, a typical Kampo (Japanese herbal medicine) formula, in preventing episodes of headache. *Curr Med Res Opin* 2006; 22:1587-1597.
- 3) 丸山哲弘. 片頭痛予防における呉茱萸湯の有用性に関する研究 塩酸ロメリジンとのオープン・クロスオーバー試験. *痛みと漢方* 2006;16:30-39.
- 4) 灰本 元, 高田 実, 林 吉夫ら. 慢性頭痛の臨床疫学研究と移動性低気圧に関する考察: 五苓散有効例と無効例の症例対照研究. *Phyto* 1999;1:8-15.
- 5) 小田口浩, 若杉安希乃, 及川哲郎ら. 【頭痛と漢方】慢性頭痛と呉茱萸湯・五苓散. *漢方と最新治療* 2009;18:103-107.
- 6) 平山恵造, 服部孝道, 寺沢捷年. しびれ感に対する牛車腎気丸の臨床評価. *神経治療* 1994;11:385-394.
- 7) 佐藤祐造. 神経疾患の漢方療法 「しびれ」に対する牛車腎気丸の効果. *神経治療* 1995;12:525-528.
- 8) Suzuki Y, Goto K, Ishige A, et al. Antinociceptive effect of Goshu-jinki-gan, a Kampo medicine, in streptozotocin-induced diabetic mice. *Jpn J Pharmacol* 1999;79:169-175.
- 9) Kimura M, Kimura I, Nojima H. Depolarizing neuromuscular blocking action induced by electropharmacological coupling in the combined effect of paeoniflorin and glycyrrhizin. *Jpn J Pharmacol* 1985;37:395-399.
- 10) 牧野利明, 大嶽信弘. 【薬学と漢方】甘草の副作用 偽アルドステロン症の発症メカニズムとその予防策について. *ファルマシア* 2011;47:403-407.

**Abstract****Kampo medicines as useful therapeutic agents in clinical practice of neurology:  
case reports & representative medicines**Kazuyuki Ishida, M.D., Ph.D.<sup>1)</sup><sup>1)</sup> Department of Neurology, Ebina Medical Support Center, Ebina General Hospital

Doctors in any department should have at least minimum knowledge of Kampo medicines. However, doctors who specialize in neurology often have inadequate knowledge of Kampo medicines. The efficacy of Kampo medicines in treating intractable diseases such as neurodegenerative diseases is not adequately understood and needs to be investigated in the future. On the other hand, Kampo medicines are often effective for treating common symptoms such as headache, dysesthesia, pain, and vertigo, encountered in daily medical practice. Because many patients suffer from these symptoms, the impact of these symptoms on our society is not small, even though the causes of these symptoms are not crucial. Having the skill to prescribe even a dozen or so Kampo medicines (for example, goshuyuto, goreisan, goshajinkigan, sokeikakketsuto) increases the treatment options and may be very beneficial in daily medical practice. In this article, I provide instructions on the use of representative Kampo medicines and present some case reports to elucidate their use. Amassing and sharing clinical experiences regarding the use of Kampo medicines would strengthen the medical evidences of Kampo medicines.

(Clin Neurol 2013;53:938-941)

**Key words:** Kampo medicines, headache, pain, dysesthesia, vertigo

---